



SONY
54,800円
AIR-7

こここのところ、受信機の大ヒット作というのがありませんでした。そんな中で、AIR-7の登場はユーザーに受けたのでしよう。爆発的な売れ方をして品切れ店が続出しました。

それというのも、ちょっとした改造で144~174MHzの30MHzも周波数帯域が広がったからに他なりません。

AM/FM/AIRと聞けるのはいいが、54,800円という値段で買い渋っていた人は少なくないようで、'84年のRL12月号で、このAIR-7の改造法を紹介すると、嵐のように飛ぶように売れました。

SONYが作った受信機で警察無線が入ってくるのですからブランドだけで買った人も多いでしょう。

それも、ネジを外せば一応は聞けるというメカニカルストッ

プ方式という点も手伝ったのでしよう。いくらSONYの受信機でも改造に水晶が必要だとかになると、こうはいかなかったはずですよ。

このメカニカルストップを見て、「アルインコ方式だ!!」と叫んでしまいました。AL-2000シリーズが、同じようなことをしていたからです。(改造マニュアルPART2記載)

単3電池4本で動作する点も便利です。ただし、あまり長時間は持ちませんので、ニッカド電池を使うべきです。

内部を見ると、ウォークマンやCDプレーヤーなど小型化の技術ではピカイチのメーカーにはしては、もっとチップ部品などを使えば小型化できたのと思わさせられます。これは第2段、第3段に期待しましょう。

AIRバンドの感度はなかなか

かですが、PSBバンドになると感度が落ちてしまいます。なぜかと思えば、付属の長いアンテナがAIRバンドに作られているために(当たり前ですね)ゲイン不足が原因でした。固定では外部アンテナを使ってください。

屋外では2mトランシーバのヘリカルホイップを使えば、短いので邪魔にもならず、感度もよくなるので最適です。

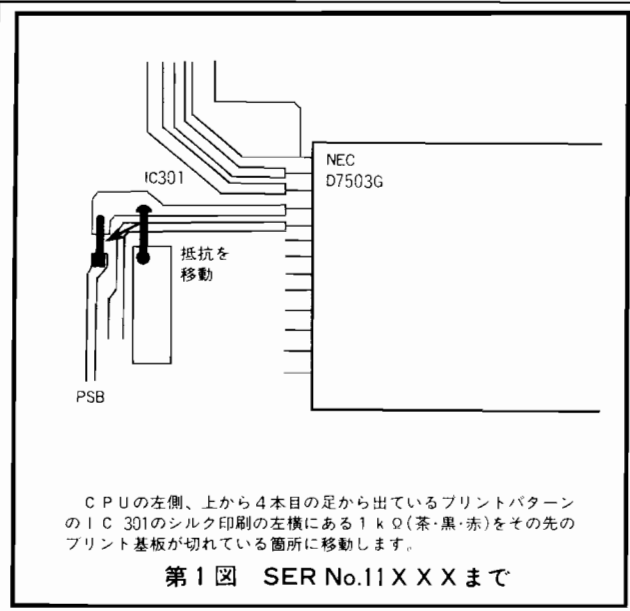
《改造ポイント》

本機の改造は初期のものと同様に売られているものでは異なります。バンドスイッチのネジを外すのはどちらも同じです。初期のSERIAL No.が11×××のもの、これだけで電源スイッチを1度OFFにして再度ONにすればPSBバンドが使えるました。No.12×××以降のものは、これだけではダメでLCDの下にあるD31をカットしなければなりません。

完全改造するためにはコントロール基板のプリントパターン側に付いているシールド板を外さなければなりません。

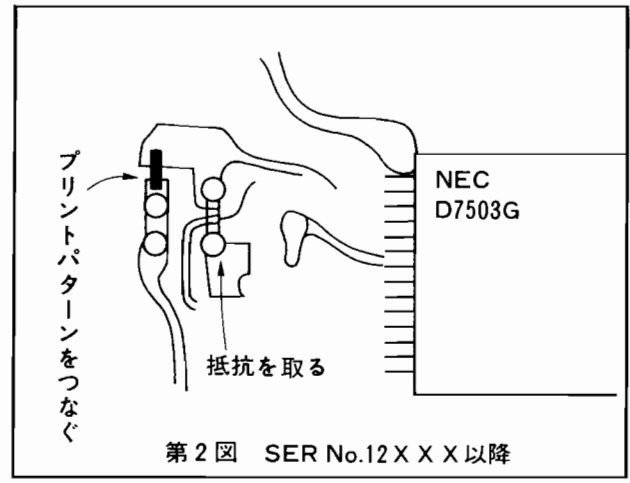
CPUの左隣が改造ポイントです。やはり、SERIAL No.によって改造方法が違いますから注意してください。

ちなみに、このCPUはNECのμPD7503Gが使われていますが、これはあのAR2001と同じものです。それだけに、上をもう少し伸ばしてもらいたかったところですよ。技術的には可能なはずですが、SONYですから難しいでしょうが……。



CPUの左側、上から4本目の足から出ているプリントパターン
のIC301のシルク印刷の左横にある1kΩ(茶・黒・赤)をその先の
プリント基板が切れている箇所に移動します。

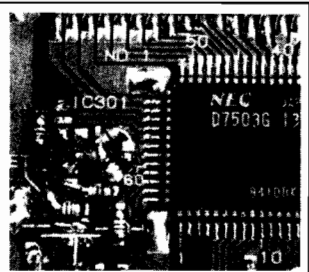
第1図 SERIAL No.11 X X X まで



第2図 SERIAL No.12 X X X 以降

あくまでも、誤動作ですがAIR-7で5MHzのJJYが受信できたことがあります。なかなか意識的に誤動作させるの

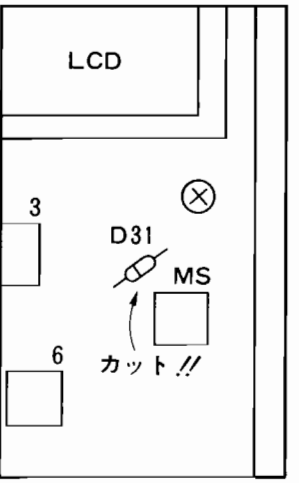
は難しいのですが、中波帯のバンドエッジになってもどんどん上がっていきます。さすがに感度はよくありませんが、意識的



改造ポイント

そもそも、PSBは輸出用です。輸出仕様のAIR-7は最初からPSBが付いているのです。そのため、簡単な変更で国内仕様機でもPSBが受信できるようになるのです。

新発売になったICF-2001Dにもエアバンドが付いていたため、こちらも「もしや?」と思いましたが、ICF-2001Dは広がらないようです。



後期バージョンはD31もカットしなければならない

に誤動作させられれば「ラジオたんぱ」だって聞けます!!